

ワールドインターネットプロジェクト研究

研究代表者	石井健一	文教大学情報学部教授
共同研究者	橋元良明	東京大学情報学環教授
共同研究者	木村忠正	立教大学社会学部教授
共同研究者	遠藤薫	学習院大学法学部教授
共同研究者	小笠原盛浩	東洋大学社会学部教授
共同研究者	三上俊治	東洋大学社会学部名誉教授

1 目的

ワールドインターネットプロジェクト(W I P)は、インターネットの利用実態と社会的影響について実証的に研究するための国際共同研究組織である。1999 年以来、南カリフォルニア大学デジタル未来研究所長の Jeffrey Cole 教授らが主催して進めている大規模な研究プロジェクトで、現在 39 カ国が参加している。研究調査代表者および共同研究者は、このプロジェクトの正式の参加メンバーであり、W I P 研究の一環として、独立行政法人・情報通信研究機構の協力を得て、2000 年、2001 年、2003 年、2005 年および 2010 年に共通設問を含む全国調査を日本で実施してきた。2004 年には東京で WIP 大会を催し、2006 年 7 月に北京で行われた国際会議では、参加国間でインターネットの利用と影響に関して、より拡大・改訂した共通設問群を作成し、参加各国の研究資金により、国際比較調査を実施し、データを共有することで合意がなされた。日本チームは、W I P 参加メンバーとして、合意された共通設問を含む、インターネット利用動向調査を実施し、各年度末に日本語および英語で報告書を作成し、W I P メンバー国に配布、情報の共有化をはかるとともに、共通設問について、共通の分析計画に従って、国際比較を行ってきた。その結果、日本人のインターネットへの信頼度が国際的にみて著しく低いなどの特徴を発見することができた。現在、プライバシー、ネットショッピング、一般市民の政治参加、幸福感、娯楽利用、ネットの安全とリテラシーに関する分科会(subgroup)があり、新しい共通設問について参加国間で論議が進められている。共通設問への回答データ

は、参加国の間で共通コードにもとづくSPSSデータファイルの形で共有し、活用することができる。

インターネットの普及と利用、社会的影響は、各国の技術動向、歴史、制度、文化などに、さまざまに異なる諸相をみせる。とくに、我が国では、インターネットがモバイルを中心に独自の進化を遂げており、SNS(social networking service)の利用方法にも独自性が見られる(Ishii2017b)。その一方で、インターネットへの信頼度は低い(Ishii 2017a)。日本人のインターネット利用の国際的な位置づけを測定するためには、WIP国際比較調査研究を実施し、データを比較分析することがきわめて大きな意義を有すると考えられる。

本研究の目的は、伝送速度が飛躍的に上昇しつつあるモバイルインターネットを中心とする我が国のメディア利用状況とその社会的影響を、実証的な国際共同比較研究によって、定量的に測定することにある。本研究の成果は、インターネットに関する今後の技術開発と政策、ビジネスモデルの構築にも貢献するものと期待される。日本人のインターネット利用の特徴を知るためには、データを比較分析することが必要である。本研究は小笠原盛浩を代表とするJWIP(Japan World Internet Project)研究の一環として行われた(共同代表: 木村忠正・石井健一)。WIPはインターネット利用行動の国際比較のための研究組織であり、共通の質問文を用いて国際比較を行っている。本研究で実施した調査においては、WIPの共通質問でない独自の質問文も含まれる。ここで報告する内容は、全てのWIPで提案された質問文を網羅するものではなく、以下のような研究目的に答えるものに限定する。

- (1) 日本人のインターネット利用行動は、接続機器やリテラシーという点からどのような特徴があるのか。
- (2) 日本人のインターネットの信頼度やプライバシー意識は、国際的にみてどのような水準にあるのか。

(3) プライバシー意識やインターネットの信頼度は、ネット上の取引行動に対してどのような影響を与えているのか。

2 方法

(1) 調査方法 2018年12月に日本全国で人口に比例して無作為に選ばれた60地点において18~69歳を対象として、各地点10人ずつ合計600人をエリアサンプリング法で選び、協力してくれる人に調査票を配布し、記入後に回収した。回答者は男性302人、女性298人、年齢別には10代が9、20代43、30代53、40代68、50代58、60代67人であった。インターネットを「現在利用している」と答えたのはそのうち、536人(89.3%)であった。

(2) 尺度構成 プライバシーについて 1. ネット上のプライバシー侵害、2. ネットでの個人情報の開示度、3. 日常生活でのプライバシー意識に関する尺度を作った。質問項目は以下の通りである(各5段階尺度)。ネット上のプライバシー侵害への不安については、1)「私のプライバシーを政府がネットを利用して侵害しているのではと不安だ」、2)「私のプライバシーを企業がネットを利用して侵害しているのではと不安だ」、3)「私のプライバシーを他人がネットを利用して侵害しているのではと不安だ」の3項目で構成し、クロンバックの $\alpha=0.903$ であった(分析対象はインターネット利用者のみ、以下同)。ネットでの個人情報の開示度に関する尺度は、1)「インターネット(SNS、ホームページなど)に、自分の詳細なプロフィールを公開している」、2)「自分の個人情報(氏名、職業、年齢など)の多くは、インターネットで見ることができる」、3)「インターネット(SNS、ホームページなど)に、自分の個人情報を書きこんでもよい」の3問で構成し、 $\alpha=0.794$ であった。日常生活でのプライバシー意識は、1)「携帯電話やスマートフォンを使っているときは、たとえ友人でも画面を見られたくない」、2)「友人との会話を知らない人に聞かれたくない」、3)「ふだん持ち歩いているカバンの中身は、た

とえ友人でも見られたくない」、4)「自分や家族の収入の額は、他人には知られたくない」の4問で構成し、 $\alpha=.769$ であった。

3 結果

3.1 調査結果の概要

ここでは、本研究の主要な成果である全国留め置き調査の結果の概要について述べることにしたい。まず、インターネットを「現在利用している」人は回答者全体の89.3%であった(表1)。どのようなメディアでインターネットを使っているのかを問うたところ、スマートフォン・携帯電話からのアクセスが83.4%と最も多い(表2)。

表1 インターネットの利用状況

	総数	現在利用している	ここ3カ月以内に使うのをやめた	3カ月以上前には使っていたが、いまは使っていない	使ったことはない	無回答
人数	600	536	0	19	45	0
%	100	89.3	0	3.2	7.5	0

表2 インターネットを利用する頻度(メディア別% N=536)

	1日数回	日に1回	週に1回~数回	月に1回~数回	月に1回未満	利用したことはない	無回答
パソコン	32.3	7.5	14.7	9.5	17.2	16.2	2.6
スマートフォン、携帯電話	83.4	4.5	5.2	1.9	0.9	3.4	0.7
タブレット	11.8	3.7	8	6	12.3	52.6	5.6
テレビ	15.7	3.9	3.4	3	6.7	61.9	5.4

3.2 国際比較に関する結果

(1) インターネットの利用行動の比較

最初にインターネット接続に使うメディアを他の国々と比較した3の結果をみる。ここからわかる日本人の特徴は、パソコン利用者がきわめて少ないということである。モバイル中心でのインターネット利用という傾向は以前から指摘されていたが、今なお続いているといえる。

次にインターネット上の主要なツールまたはサービスについて比較した結果を示すことにする。

まず、最初にメールを使う頻度をWIP各国と比較したのが、図1である。日本ではメール利用頻度は、米国、スイス、ニュージーランドなどとともに高いほうであるといえる。

インターネットを利用して電話をかけるサービスはあまり使われていない。次の図2は、日本人がインターネットで電話をかけることはあまり多くないことを示している。

ただし、オンラインでのゲーム利用は活発である。最近の日本でのソーシャルゲームの流行が反映しているのであろう。「日に数回」ゲームをするというヘビーユーザが日本には30.2%もあり、これは比較可能な12ヶ国中のトップの比率である(図3)。

表3 インターネット接続に使うメディア(1日1回以上)

	日本	フランス	スウェーデン	米国
パソコン	39.8	73	—	74
携帯電話・スマホ	87.9	61	78	84
タブレット	5.5	28	31	30

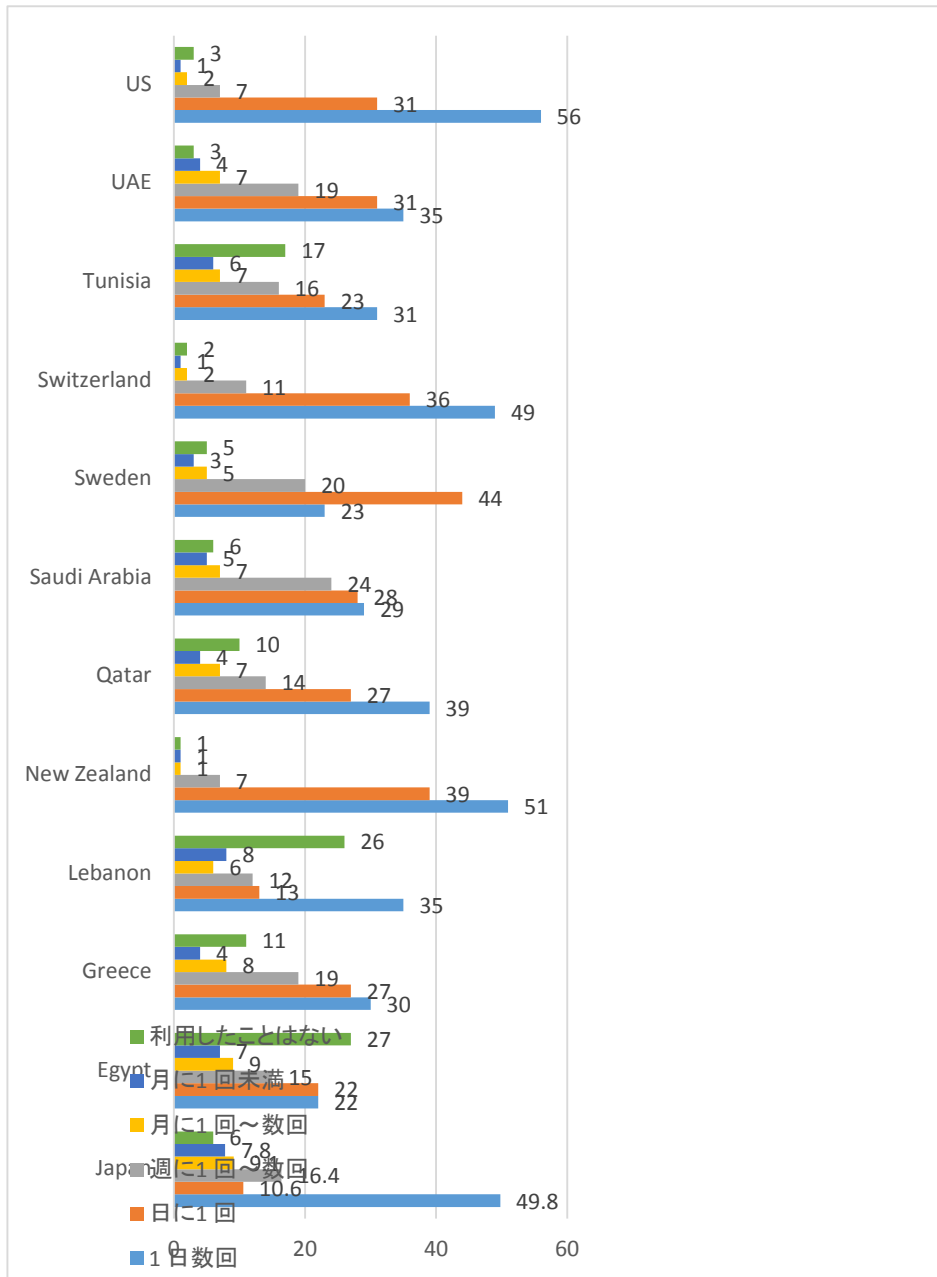


図1 メールを使う

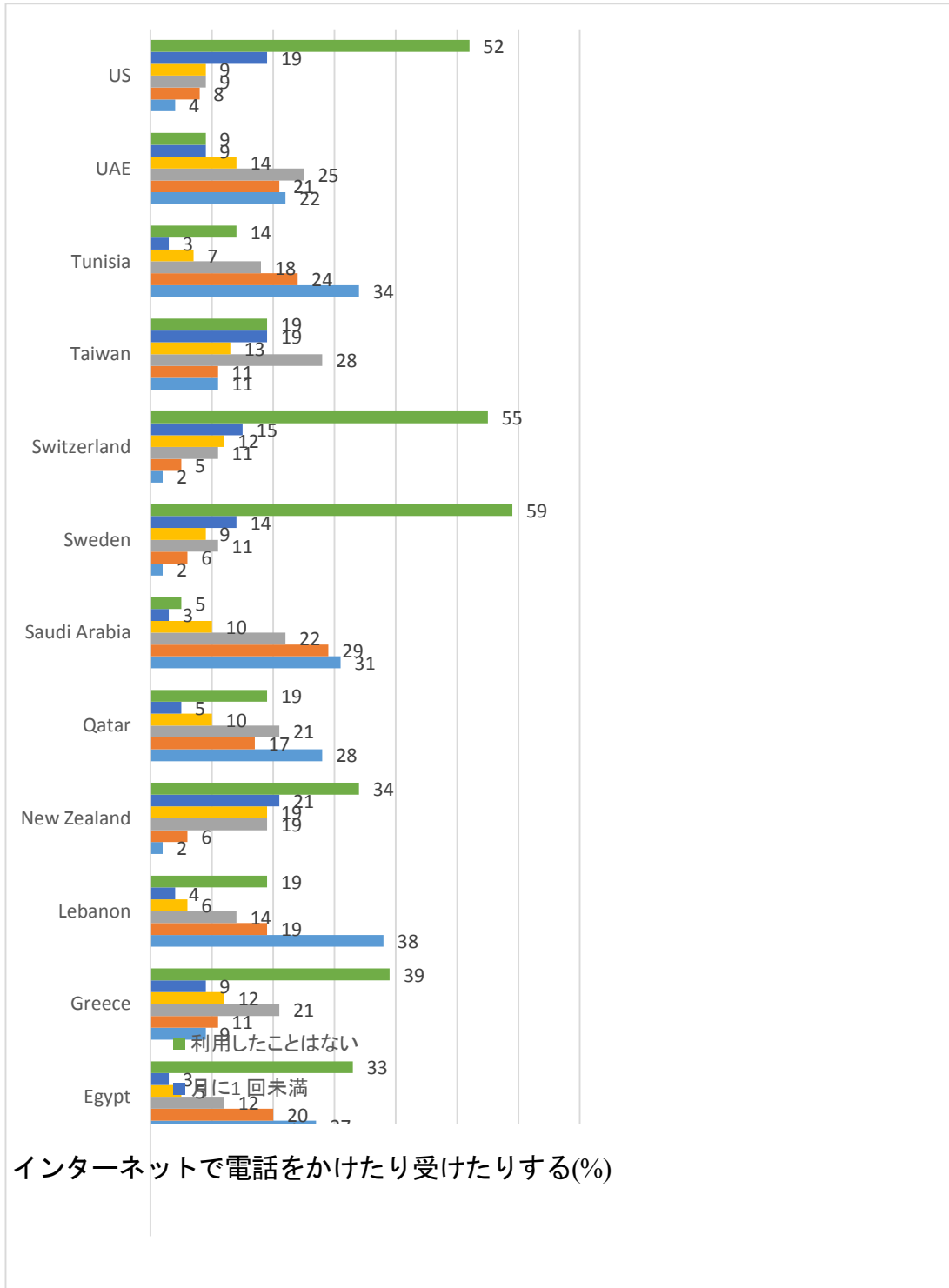


図2 インターネットで電話をかけたたり受けたりする(%)

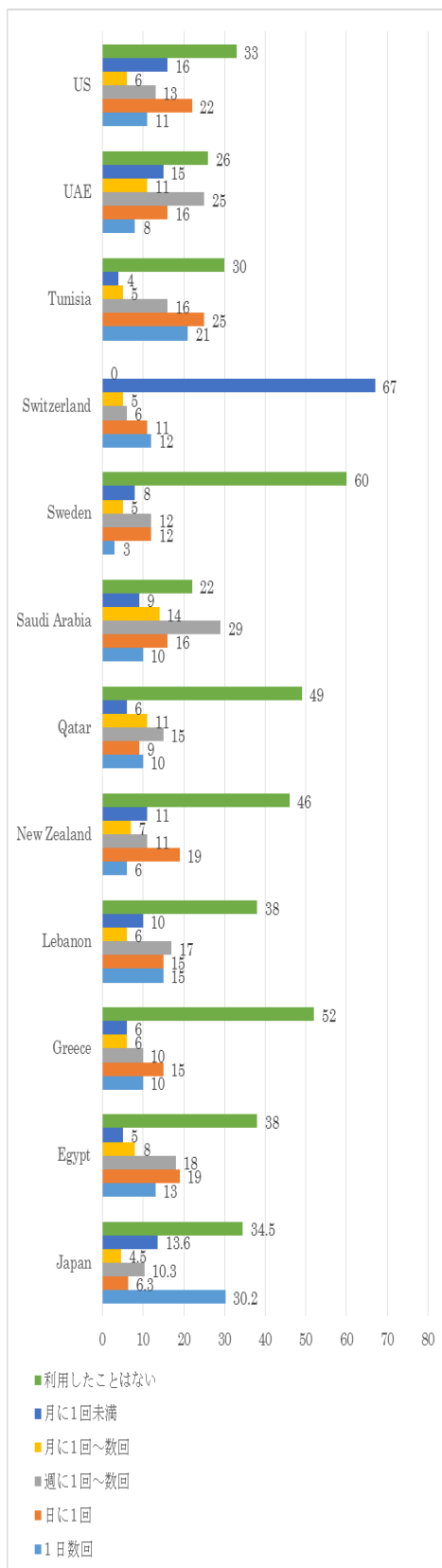


図3 オンラインゲームをする(%)

(2)インターネット・リテラシー

表4は、基本的なインターネットの利用方法について、回答者がどの程度できるか、その能力をたずねた結果を比較したものである。フランス、米国と比べて日本人のインターネットから関係するリテラシーは劣っていることがわかる。この背景には、日本人はパソコンによるインターネット利用が他国に比べて少ないという状況があるのかもしれない。また、日本人はコンテンツを投稿した経験が少なく、コンテンツの投稿に関するリテラシーが特に低い。

表4 インターネットリテラシーの比較(「まああてはまる」「あてはまる」の%)

	日本	フランス	米国
ダウンロードしたファイルの開き方を知っている。	63.5	88	88
オンライン検索するのに最適のキーワードを考えるのは簡単である。	49.6	85	80
インターネット上のコンテンツをシェア(共有)する相手を変えるやり方を知っている。	24	73	77
コンテンツをつくりアップロードするやり方を知っている。	18.2	59	71
アプリをスマートフォンなどのモバイル機器にダウンロードするやり方を知っている。	58.1	64	85
コンテンツを投稿したことがある	31.5	57	69

(3)インターネットへの信頼度

日本人のインターネットへの信頼度が低いことが、今回の調査結果からも再確認された。たとえば、「インターネットから得られる情報を、全般的にみると、信頼でき正確な情報は、どの程度あると思いますか」という問いに対して、「大部分」または「全て」と答えた回答が、インターネット利用者において米国では37%、フランスでは15%、台湾では26%であるのに対して、日本では17%であった。「プライバシーはもはやないのが現実だ」には、「ある程度」または「非常に賛成する」が、米国では24%、フランスでは18%だったのに対して、日本では36.9%であった(インターネット利用者の回答)。

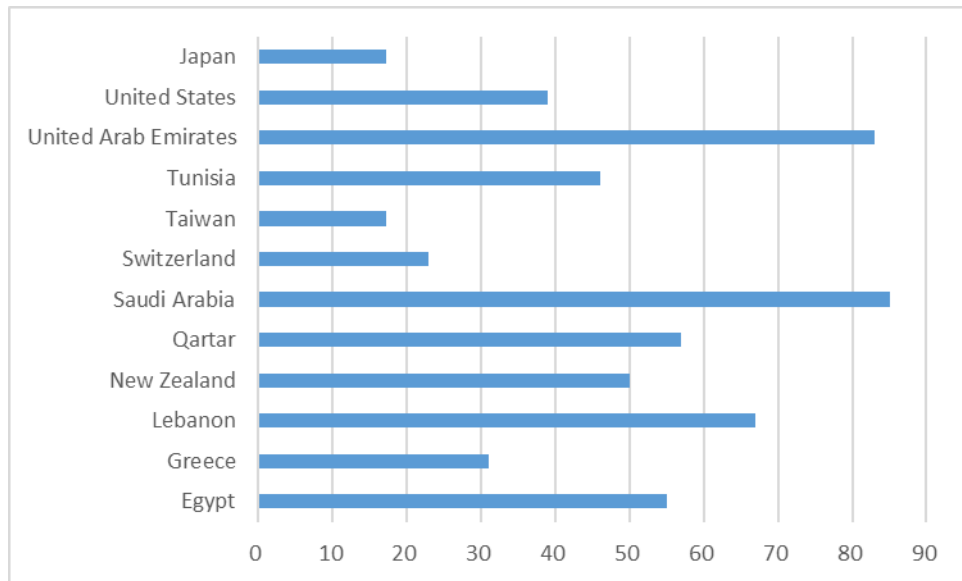


図4 インターネットを「すべて」+「大部分」「信頼でき正確」の%

(4) ネット上の商取引の頻度

日本人のインターネットショッピングの利用者の比率は、週1回以上の比率で比較すると、米国、ニュージーランドに次いで多い（図5）。なお、インターネットへの信頼度が低くなると、ネット上の商取引も少なくなるという相関関係があると予想される。この点を回帰分析によって検証したが、商取引の頻度との関係はみられなかった(表10)。

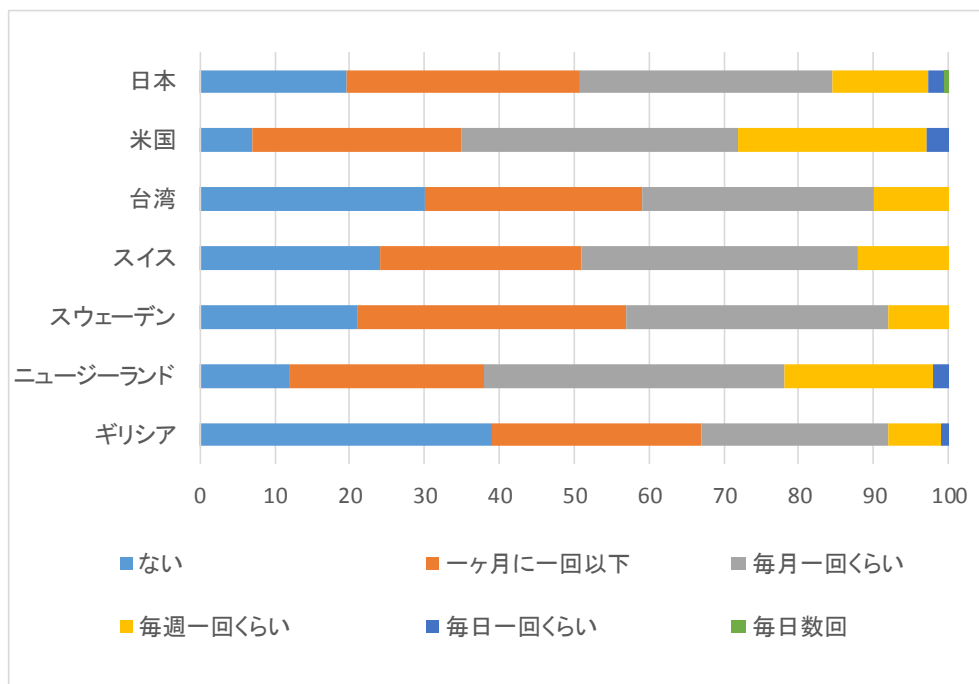


図5 ネットショッピングの頻度 (インターネット利用者)

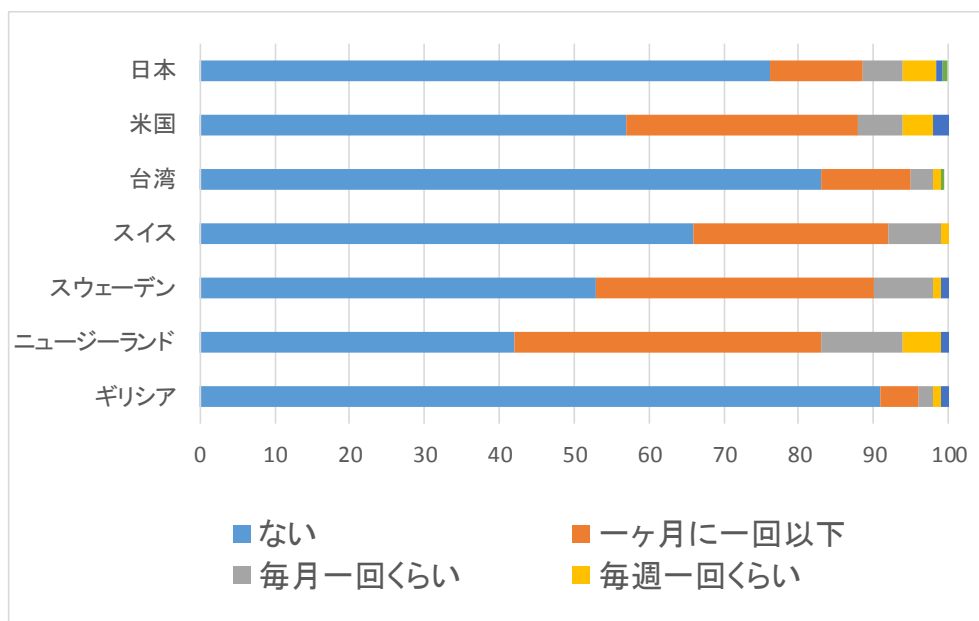


図6 ネットで物を売る頻度 (インターネット利用者)

(5) プライバシー意識と被害の認知

表5 にプライバシー意識に関する項目を比較可能な WIP 五ヶ国と比較した結果を示した。

「何ら隠すものはない」への肯定率が圧倒的に低いことは、プライバシー意識が高いことを示唆しているが、その他の項目はこれとは異なる傾向を示している。たとえば、「プライバシーを守ることに積極的である」や「プライバシーはもはやないのが現実だ」については肯定率が低い。また、「政府がネットでプライバシーを侵害していると不安だ」「企業がネットでプライバシーを侵害していると不安だ」のいずれについても肯定する比率が他国に比べて低い。これらの結果は、日本人はネットでのプライバシー侵害をそれほど心配していないといえる。また、日本人は、本人のプライバシー被害の認知率について他国と比べてほとんどの項目で最も低い(表6)。日本人は被害の認知は低いにもかかわらず、プライバシー意識はやや高く、やや矛盾した結果になっている。

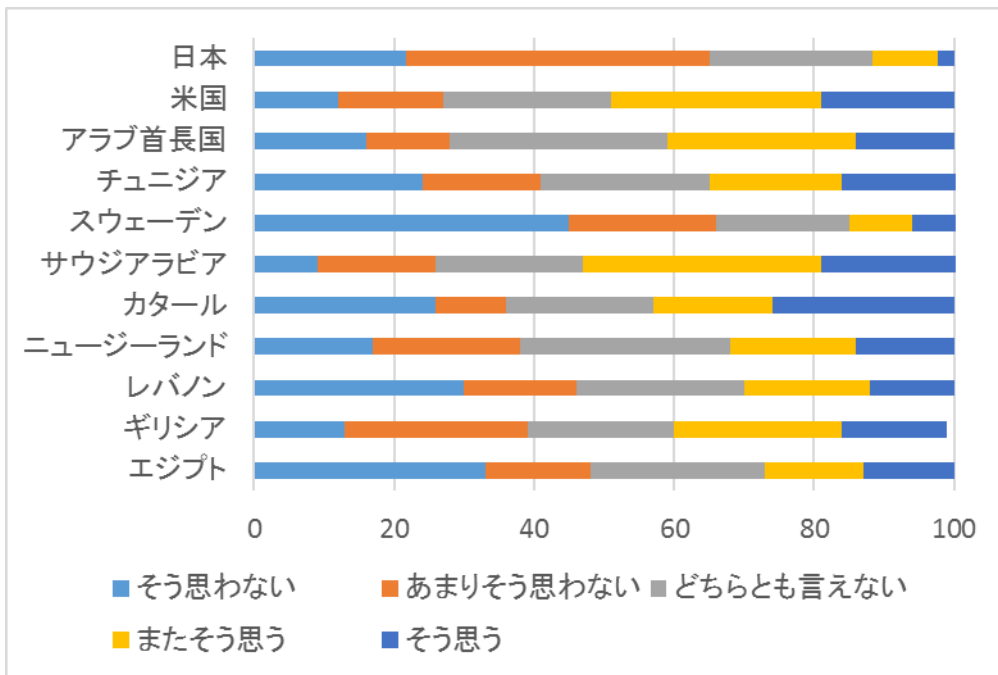


図7 「政府がネットでプライバシーを侵害しているのではと不安だ」

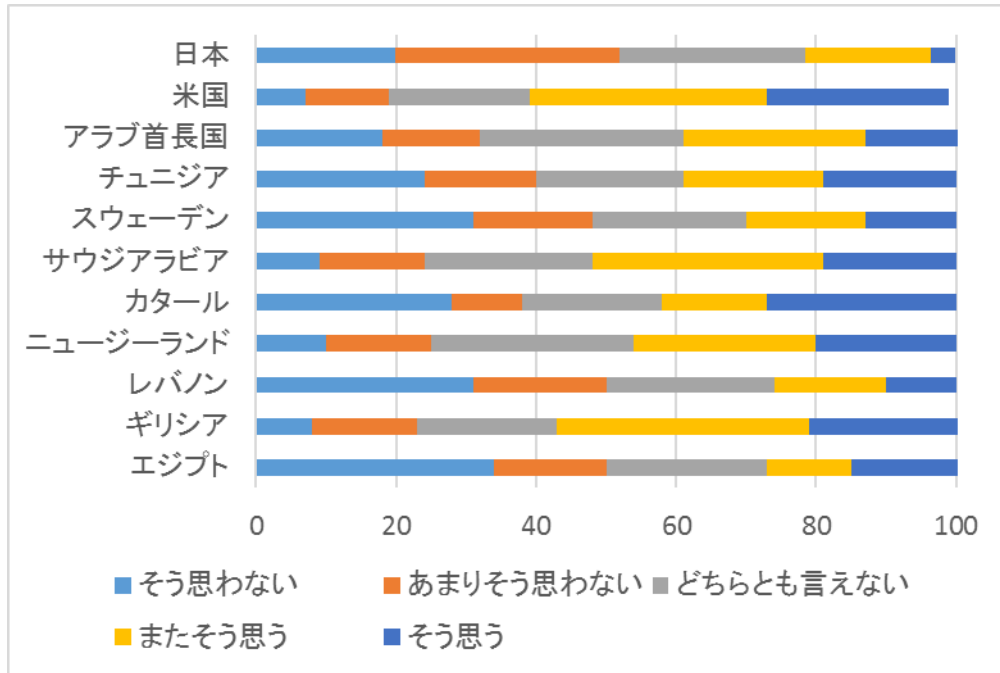


図8 「企業がネットでプライバシーを侵害していると不安だ」

表5 各国のプライバシー意識（「非常に」+「どちらかと言うと」賛成%）

	ギリシア	ニュージーランド	スイス	米国	日本
ネット上のプライバシーに関する不安が大げさに騒がれ過ぎている	34	22	28	23	26
プライバシーはもはやないのが現実だ	57	44		49	37
インターネットを使う時には、自分のプライバシー情報を公開するかどうかが管理できる	56	46	41	40	44
わたしは、ネット上で自分のプライバシーを守ることに積極的である	63	69	83	72	31
わたしは何ら隠すものはない	71	65	72	66	22

表6 ネットでの被害の認知(%)

	ギリシア	ニュージーランド	スイス	台湾	米国	日本
ネットでのいじめ、ハラスメントを受けた	5	6	3	4	12	0.9
アダルトサイトに、誤ってアクセスした	49	31	35	40	38	12
コンピュータウィルスに気づいた	42	30	25		40	19.3
ウェブサイトで、商品表示・説明が事実とは異なる偽ったものを購入した	8	15	6		29	7.1
インターネットを利用することで、クレジットカードの詳細な情報を盗まれた	3	4	6		13	11.2
ネットで、あなたの銀行情報や個人情報を提供するよう、誰かが連絡してきた	15	42	39		37	5.2

インターネット利用者限定して、三つのプライバシーに関する尺度間の相関係数を求めたのが表7である。この結果から、ネット上のプライバシー意識と日常生活のプライバシー意識は、有意ではあるものの、そんなに高い相関関係はないことがわかる($r=0.221$; $p<.001$)。一方、個人情報の開示度は、ネット上のプライバシー意識とも日常生活でのプライバシー意識とも有意な相関が得られず、インターネット利用時間と有意な相関が得られた。また、表8に示されるようにネット上の取引行動（商品を買う、旅行の予約、売る）との相関関係で有意だったのは、ネット上の個人情報の開示と「商品を買う」「旅行の予約」であり、インターネットへの信頼度やプライバシー意識とは関係がみられなかった。

表7 プライバシー意識関係の相関関係 (インターネット利用者)

	ネットでの個人情報 の開示度	日常生活でのプ ライバシー意識	インターネット利 用時間	年齢
ネット上のプライバシー 侵害認知	.064	.221 ***	.056	-.127 **
ネットでの個人情報の開示 度	1	.134	.228 ***	.151 ***
日常生活でのプライバシー 意識		1	-.062	.062
インターネット利用時 間			1	-.361 ***

さらに、インターネットへの信頼度とネットで商品を買う頻度の各々を従属変数とした回帰分析の結果を示す(表9 および 10)。インターネットへの信頼度は、年齢が高いほど高く、ネット上のプライバシー侵害を認知しているほど低いことがわかる。また、ネットでの購買頻度については、インターネットの利用時間が長いこととネット上の情報の開示度がプラスであり、リスク志向が強いことがマイナスの相関があることを示していた。なお、年齢との関係は見られなかった。

表8 ネット上の取引行動とプライバシー意識の相関関係

	商品を購入する	旅行の予約をする	ネットでモノや情報売る
ネット上のプライバシー侵害認知	.078	.028	.005
ネットでの個人情報の開示度	.168***	.088*	.082
日常生活でのプライバシー意識	.012	.007	-.080
インターネットへの信頼度	.051	.109*	.063

表9 インターネットの信頼度を従属変数とする回帰分析

	標準化回帰係数	t 値
インターネット利用時間	-0.02	-0.32
ネットでの売買	0.09	1.91
一般的なリスク志向	-0.03	-0.58
ネット上のプライバシー侵害	-0.10	-2.14 *
ネットでの個人情報の開示度	0.00	-0.01
日常生活でのプライバシー意識	0.09	1.89
インターネットリテラシー	0.02	0.36
関係流動性	0.04	0.94
年齢	0.14	2.68 **
学歴	-0.03	-0.73
世帯収入	0.06	1.18

R²=0.048

表 10 ネットでの購買頻度を従属変数とする回帰分析

	標準化回帰係数	t 値
インターネット利用時間	0.15	3.03 **
一般的なリスク志向	-0.12	-2.51 *
ネット上のプライバシー侵害	0.08	1.76
ネットでの個人情報の開示度	0.13	2.85 **
日常生活でのプライバシー意識	0.01	0.18
インターネットへの信頼度	0.08	1.82
インターネットリテラシー	0.08	1.68
関係流動性	0.04	0.83
年齢	-0.02	-0.36
学歴	0.00	-0.11
世帯収入	-0.02	-0.42

R²=0.081

4. 結論

WIP において共通質問を用いて比較することにより、日本人が他国に比べてモバイル中心のインターネット利用をしていることが再確認できた。さらに、インターネットリテラシーという点では、日本人利用者は他国と比べて低い水準であることもわかった。また、国際的にみてインターネットへの信頼性が低いことも再確認できた。また、メールの利用頻度は高い方であったが、インターネットを使つての電話利用は少なかった。一方、オンラインゲームの利用頻度は WIP 諸国の中で最も高かった。

しかし、インターネットへの信頼度は低いものの、プライバシー意識については、日本人は特に強いとは言えなかった。自分自身のプライバシー被害の認知は、比較した五カ国では最も低かった。また、ネットのプライバシー侵害への意識とネット上の消費行動には関連は見られず、ネットでの個人情報の開示度のみが有意な正の相関が得られた。つまり、プライバシー意識やインターネットへの低い信頼度が具体的な行動に結びついているという結果は見られなかった、

注 本研究は、2017年度財団法人電気通信普及財団の研究助成金「ワールドインターネットプロジェクト研究」(代表・石井健一)によって実施されたものである。

【参考文献】

Cole, J.I et al., (2018) World Internet Project Report, Ninth Edition, <https://www.digitalcenter.org/reports/>
 Ishii, K. (2017a) A Comparative Study between Japanese, US, Taiwanese and Chinese Social Networking Site Users: Self-Disclosure and Network Homogeneity , Ana Serrano Telleria (Editor) Between the Public and Private in Mobile Communication (Routledge Studies in New Media and Cyberculture) Routledge
 Ishii, Kenichi(2017b) Online communication with strong ties and subjective well-being in Japan, *Computers in Human Behavior*,6.

〈発 表 資 料〉

題 名	掲載誌・学会名等	発表年月
インターネット利用の国際比較: World Internet Project 日本チーム (JWIP) 調査報告—日本人のネットへの信頼度とプライバシー意識—	情報通信学会大会	2019年6月30日
インターネット利用国際比較調査の現状と今後 ～WIP (World Internet Project) 20年の活動への日本チーム (JWIP) の取り組みから～	情報通信学会大会	2019年6月30日